

# ゴルフの起源

— ゴルフがオランダからスコットランドへ渡来した論拠 —

寺崎 義永

## 目次

- I. はじめに
- II. スコットランド起源説
  - II-1. 羊飼いの発祥説
  - II-2. 貴族発祥説
- III. オランダ起源説
  - III-1. ゴルフの故郷
  - III-2. さまざまな新説
  - III-3. Golf in Holland
  - III-4. Early Golf
- IV. おわりに

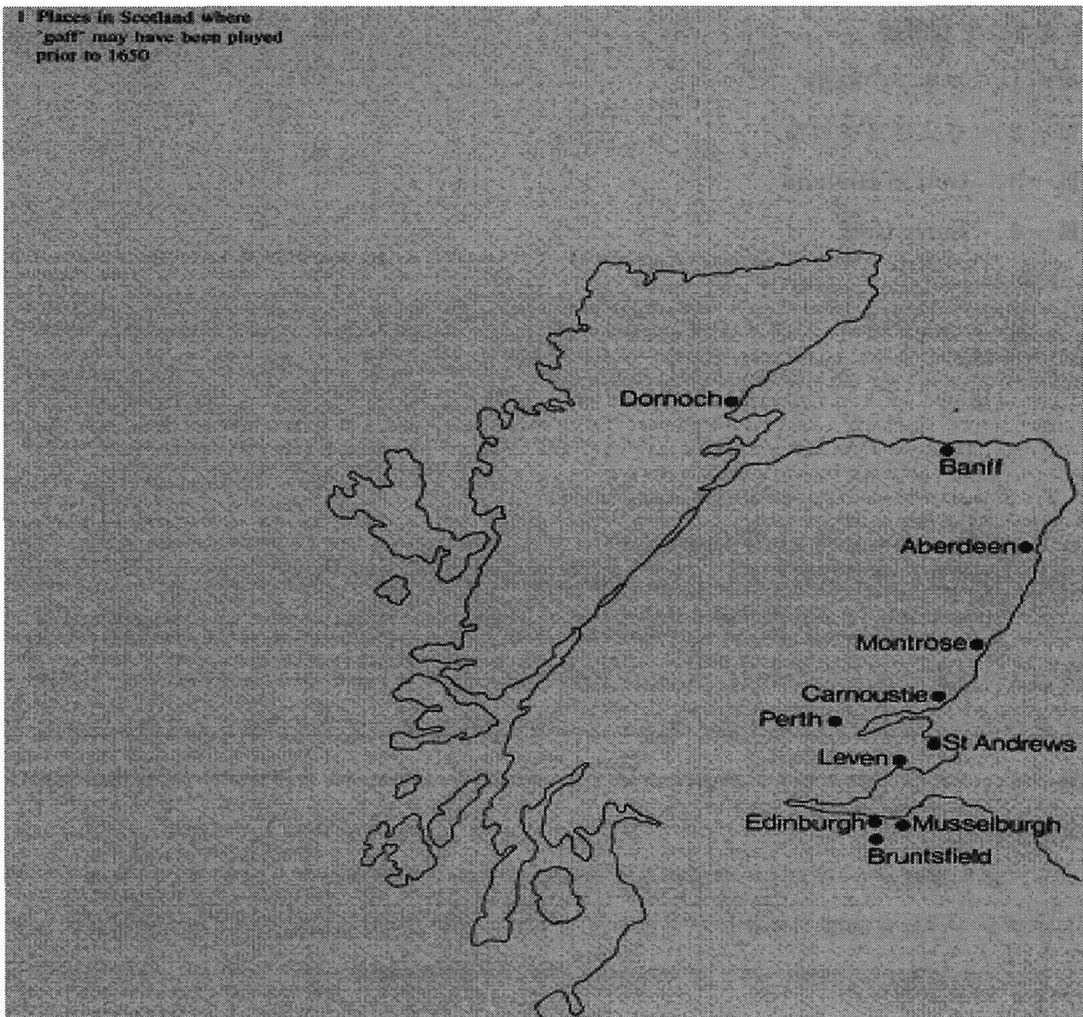
## I. はじめに

ゴルフには長い歴史がある。しかし、その起源については定かでない。古くから多くの論争があり、その代表格はスコットランド起源説とオランダ（ローカントリーズ）起源説である。前者は19世紀ビクトリア時代、ゴルフを国技と信じるスコットランド人達の代弁としてロマン主義者たちが唱えたのに始まる。他方、20世紀初頭オランダでは、多くの文献、絵画などを揚げて、コルフ（コルベン）をルーツとするオランダ（ローカントリーズ）起源説が盛んに唱えられた。

ゴルフが初期にプレーされた地域を示す地図を見ると、不思議なことに気づく。スコットランドでプレーされた地域とオランダ（ローカントリーズ）は向かい合っているのである。スコットランドの西海岸の地域には1850年頃まで、ゴルフは無かった。そして、ゴルフがプレ

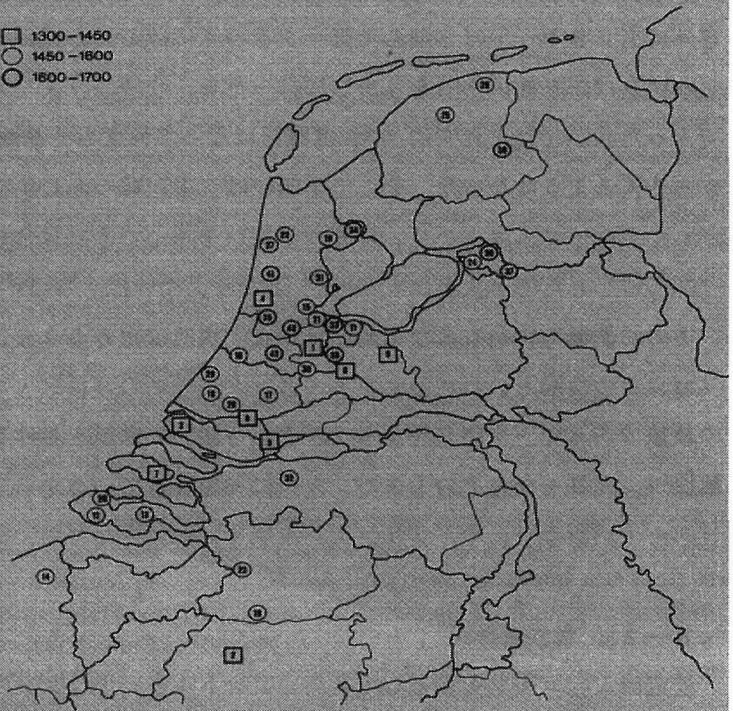
一された地域は海を隔てたオランダ（ローカントリーズ）と貿易をしていた港であった。すなわち、オランダ（ローカントリーズ）はゴルフと密接な関わりがあったのである。13世紀初頭のオランダ（ローカントリーズ）の文献にコルフあるいはコルベンと呼ばれたゴルフによく似たゲームが書かれてある。有名なオランダ人画家が描いたコルフの絵画は450以上にのぼる。そして、ひとつははっきり言えることがある。オランダ（ローカントリーズ）とスコットランドの初期のゴルファーの間には良い相互作用があったのである。1485年から17世紀に入るまで大量のボールがオランダ（ローカントリーズ）からスコットランドへ輸出され、一方、1650年頃、スコットランド産のゴルフクラブがオランダ（ローカントリーズ）へ輸入されたのである。通常の貿易においても二国は密接な関係にあった。そして、オランダ（ローカントリーズ）とスコットランドの友好関係は長く続くのである。当時、ヨーロッパでは長く、激しい戦争が続いたが、この二国は友好国だったのである。

本研究はゴルフの起源について、スコットランド起源説とオランダ（ローカントリーズ）起源説を集約し、私見としてのゴルフの歴史を考察していく。



2 Places in the Low Countries where colf was played prior to 1700, with the first year of play

- 1300-1450
- 1450-1600
- 1600-1700



- |    |                          |    |                                                                                 |
|----|--------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 1207 Loenen aan de Vecht | 24 | 1561 Kampen                                                                     |
| 2  | 1360 Brussel             | 25 | 1566 Leeuwarden                                                                 |
| 3  | 1387 Brielle             | 26 | 1571 Dokkum                                                                     |
| 4  | 1390 Haarlem             | 27 | ca. 1580 Egmond                                                                 |
| 5  | 1401 Dordrecht           | 28 | 1581 Schiedam                                                                   |
| 6  | 1401 Utrecht             | 29 | 1583 's-Gravenhage                                                              |
| 7  | 1429 Zierikzee           | 30 | 1583 Woerden                                                                    |
| 8  | 1431 Rotterdam           | 31 | ca. 1590 Edam                                                                   |
| 9  | 1436 Amersfoort          | 32 | 1595 Breda                                                                      |
| 10 | 1455 Leiden              | 33 | 1606 Muiderberg                                                                 |
| 11 | 1456 Naarden             | 34 | 1612 Enkhuizen                                                                  |
| 12 | 1461 Middelburg          | 35 | 1625 Haarlemmermeer                                                             |
| 13 | ca. 1469 Goes            | 36 | 1634 IJsselmuiden                                                               |
| 14 | 1477 Brugge              | 37 | ca. 1640 Zwolle                                                                 |
| 15 | 1480 Amsterdam           | 38 | ca. 1650 Oud Zuilen                                                             |
| 16 | 1481 Mechelen            | 39 | 1654 Beesterzwaag                                                               |
| 17 | 1488 Gouda               | 40 | 1659 Ouderkerk aan de Amstel                                                    |
| 18 | ca. 1500 Delft           | 41 | 1659 Fort Orange en het dorp Beverwijck, Nieuw Nederland (Albany, N.Y., U.S.A.) |
| 19 | 1531 Hoorn               | 42 | ca. 1660 Nieuwkoop                                                              |
| 20 | 1548 Veere               |    |                                                                                 |
| 21 | 1550 Muiden              |    |                                                                                 |
| 22 | ca. 1550 Alkmaar         |    |                                                                                 |
| 23 | 1553 Antwerpen           |    |                                                                                 |

## II. スコットランド起源説

### II-1. 羊飼いの発祥説

1887年にエディンバラで出版されたサー・ウォルター・グリンドリー・シンプソンのゴルフ指南書“The Art of Golf”の第二章「ゴルフの起源」に、シンプソンは次のように述べている。

「スコットランドの北海に面した海際の砂丘にあった天然の牧場で、ある日、ひとりの羊飼いが退屈まぎれに、先の曲がった牧杖で、足元の丸い小石を打ち飛ばした。するとその小石は意外にも20ヤードほど飛んで野うさぎの穴にぼこりと転がりこんだ。羊飼いは、これはおもしろいとばかり他の小石をためしに打ったら、今度はうまく入らなかったけれど、最初に一発で入った味が忘れられずに、かれは躍起になって何度もくり返した。次第に上手になって、時々うまく入るようになった。そこで羊飼いは、よい暇つぶしができたのと自分の腕前を見せびらかしたくなって、さっそく、仲間の羊飼いを呼んできて試合を始めた。距離をだんだん遠くへ“Go-off”したのが次第に“Gouf”となり、ついに“Golf”となった」

このお伽噺めいた有名な羊飼いの発祥説の根拠は次のようなことである。

ゴルフの故郷といわれるセント・アンドルーズのゴルフ・コースは800年頃までは、自然の牧場であって、当時北海から吹きまくる激しい寒風を避けるために造られた牧羊の巨大な防風壕が、今日もなおそのままバンカーに利用されているからである。オールド・コースにある「ヘル・バンカー」や「プリンシパルズ・ノーズ」などが、それである。

### II-2. 貴族発祥説

桂冠詩人のゴルフ史家として名高いアンドルー・ラングは、1890年にロンドンで創刊されたバドミントン・ライブラリーのゴルフ編の第一章でオランダ起源説に反論している。

「クリケットがポーカーであるよりも、ゴルフはコルベンではない。ゴルフがスコットランドで生まれたのは、そこにリンクスランドがあったからだ」

リンクスランドとは、スコットランドの海岸に多い特殊な砂丘と草原の地質学的名称である。大海原のようなアンデューレーションにみち、ベントやフェスキューの芝生が自生し、いたるところに長年の風雨で造られたバンカーがあった。さらに、古くから公共の広場として開放されていたため、夏の長い白夜をもてあました貴族や庶民たちによって自然発生的にゴルフという球戯が生まれたのだというのがラングの論拠である。

## III. オランダ起源説

### III-1. ゴルフの故郷

ゴルフ史研究家ジェームズ・カニングム（ロイヤル・アンド・エインシエント・ゴルフ倶楽部会員）はゴルフのオランダ発祥説を唱えた。カニングムはオランダへ行って、各地の美術館や

博物館、図書館などを克明に調べ、1907年に見聞記“ゴルフの故郷”を発表した。

オランダには大昔からコルフ（コルベン）というゴルフとよく似た球戯があった。これがスコットランドに渡来してゴルフに変化したという説である。カニンガムはその見聞記に16世紀時代の有名なオランダの画家たちが描いたコルフの絵をはじめ、古い文献のほか陶磁器で名高いデルフトで製造されるコルフの模様が焼きつけられた室内装飾用の珍しいダッチ・タイルなどを証拠として掲載した（写真1・2）。



(写真1)



(写真2)

### III-2. さまざまな新説

オランダ起源説は色々な説に拡大していった。ある歴史家は、1314年（バノックバーンの戦勝後）スコットランド王ロバート・ブルースがセント・アンドルーズ大聖堂を建立する際、オランダの優れた建築職人や土木工夫たちを雇い、彼らによってゴルフがもたらされたとの説を唱えた。また同時代の説としてスコットランドの交易船グッド・ホープ号がオランダ近海で遭難し、救助された人々がコルフを習い覚え、道具とボールを持ち帰ったとの説もある。

### III-3. Golf in Holland

1931年に新聞記者 J・A・ブロンガーズが“Golf in Holland”という評論を発表した。従来のオランダ起源説の論拠は絵画一辺倒だったが、ブロンガーズは多数の公文書をもとに言



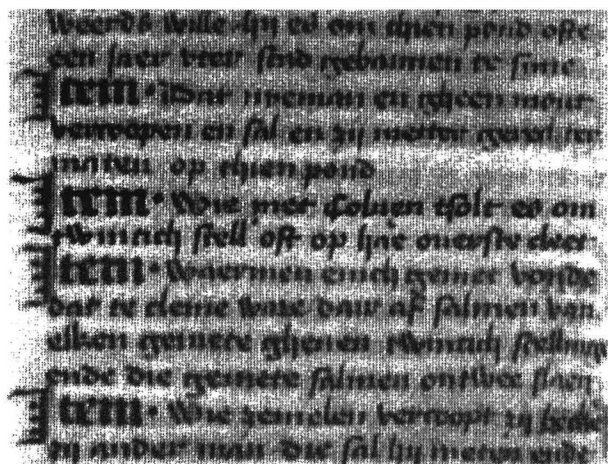
及した。スコットランドの最古の文献である1457年のゴルフ禁止令よりはるかに古い、14世紀初頭のオランダゴルフに関する公文書の発見は大反響を呼んだとある。しかし、不運にもブロンガーズは1954年に航空事故で亡くなった。

### III-4. Early Golf

1982年、ゴルフ研究家のスティーブン・バン・ヘンゲルが25年の歳月をかけ、古来のゴルフ史料を集録したEarly Golfを出版した。バン・ヘンゲルは1925年アムステルダム生まれ、J・A・ブロンガーズの友人である。銀行家であり、後年はセント・アンドルーズ、R&Aの会員となった。

#### III-4-1 禁止令の比較

バン・ヘンゲルは、スコットランド最古の記録が1457年のジェームズ2世のゴルフ禁止令であり、それ以前の禁止令ではフットボールのみである事に注目し、即ち、ゴルフが行われていなかった根拠を示している。一方オランダでは、1360年に危険防止のための法令が14都市で発令された記録があり、街路や教会の庭でのゴルフを禁じている。違反者には20ギルダーの罰金を科したとされる。(写真3)はオランダ語で書かれたゴルフ禁止令の文書である。



(写真3)

#### III-4-2 用具の発達と交易

ボールはニレヤブナの木球に始まり、次第に牛毛を詰めた羊皮のボール、そしてガチョウの羽毛を詰めた牛皮のフェザーボールへと変化した。1502年には4万個のボールがデルフト、アムステルダム、ロッテルダムで製作されたと述べている。

クラブは初期にはトネリコ、ツゲ、ハシバミのシャフトに鉛のヘッドのアイアン・クラブが

使われた。1520年頃から首都デン・ハーグに近いライデンで製作され、1600年にはクラブメーカーの組合が組織されたとある。

これらの用具をオランダからスコットランドへ輸出されていた記録がある。1485年以降、多量のフェザーボールがスコットランドに輸入され年々莫大な金貨が流出していたが、遂に1613年、国王ジェームズ6世はボールの輸入を禁じ、自国エディンバラの商人に21年間ボール製作販売の独占権（公定価格4シリング）を与えている。このことから、スコットランドがいかにも遅れていたかをバン・ヘンゲルは指摘した。

### Ⅲ-4-3 文化遺産

スコットランド最古のゴルフ絵画が1746年であるのに対し、オランダではそれ以前にゴルフを描いたものは450点あまりとの史実を明らかにしている。また、ゴルフがアイスホッケーの前身であるとの見方を否定し、ゴルフも初期はゴルフと同様に草原で行われ、コースの距離は650ないし1073メートルだったと明言している。しかし、ゴルフが盛んになるにつれ、狭い土地での牧畜や農作を妨害するようになり、次第に安全な道路や凍結した河や運河の上で行われるようになったと言及し、ターゲットも氷上では柱標を用い、陸上では地面を掘ったホールやさまざまな物を適宜用いたと言っている。

### Ⅲ-4-4 競技方法

ゲームの方法については、起源論争の大きな争点であるが、バン・ヘンゲルは初期の陸上のゴルフにおいても、万事がゴルフの原型であると断言している。初期陸上のゴルフはゴルフのマッチプレーと同じく、2人から4人が両チームに別れ所定のホール数を1ホール毎に勝負を競うもの（4サムや8サム）と、ゴルフのストロークプレーのように各自の総打数で競う2種類があったとしている。規則もゴルフと似た伝承の不文律で裁き、ハンディキャップも技量に応じて相互の契約で決められていたとある。

## IV. おわりに

諸説を集約し比較をしたが、バン・ヘンゲルの説に傾注せざるを得ないほど、豊富で確かな資料の基に研鑽された論であることは歪めない。

多くの打球戯は、太古より世界各地でその原型と思われるものが発見されている。球があれば棒のようなもので打つてみたいという欲求は、自然に芽生えるに違いない。そもそもゴルフとゴルフが、中世のヨーロッパにおいて、どちらが一步早く発祥したのか、長い人類の歴史からすればほんの一瞬の差であるのかもしれない。バン・ヘンゲルがその結論をあえて出さずに

終えていることは、その意味においても正論である。

16世紀フランドル絵画のピーテル・ブリューゲル(子)の1565年作「鳥罾のある冬景色」(写真4)においては、氷上でゴルフに興じる人々が描かれているが、1640年作アールト・ファン・デル・ネールの「村の午後」(写真5)においては、屋外ではあるが、敷地の中で長方形の囲いを作りゴルフをしている。その様子は、氷上の前者に比べ、ゲームとして発展したようにも見える。この2枚の絵が描かれた時代はスペインとの間の、所謂80年戦争の時代である。ネーデルランドは貴族オラニエ公ウイレムの独立戦争により共和国を樹立、1648年に終結した。この間のオランダ東インド会社の設立は香料貿易の富をオランダに与えることになる。経済の裏付けを得た文化の発展は、ゴルフを氷上から庭、室内へとコンパクトな形体に変化させたのである。ゴルフが再三の禁止令により縮小化したとの大方の見方のなかで想像してみる。

1668年作アドリアン・バン・デ・フェルドの絵画「ハーレム氷上のゴルフ」の中で2人のキルトを着用したスコットランド人がオランダ人と共にゴルフに興じている(写真6)。2人はオランダ軍に雇われた傭兵であろうと推測される。1574年から1826年の間にスコットランド人傭兵とオランダ人女性の結婚が4800組とバン・ヘンゲルは記しており、この傭兵達が花嫁と共にゴルフをもスコットランドに運んだのである。スコットランドではゴルフを、オランダではゴルフを楽しむ傭兵がいたに違いない。何故ならゴルフ禁止令は1457年に遡るからである。

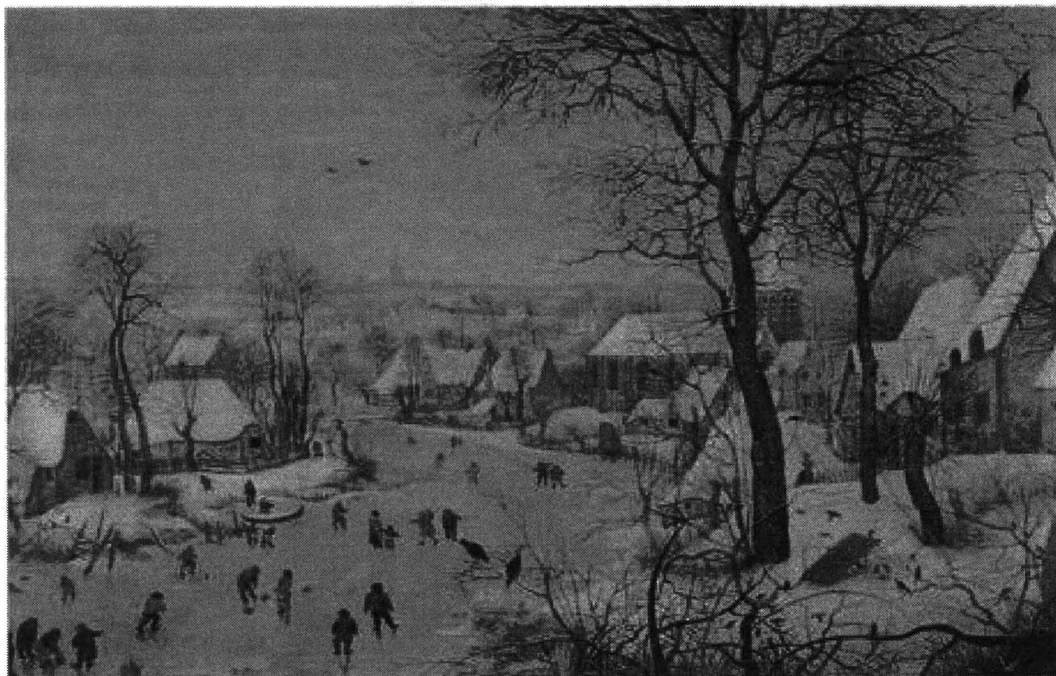
改めて、バン・ヘンゲルの掌上で自論を集約してみる。

オランダで僅かに早く、ゴルフは発祥した。ネーデルランド特有の低地、牧草地、入り組んだ運河といった地形がゴルフを生み出した。夏は草が生い茂りプレーはできず、牛や羊が草を食べつくした秋から春にかけてプレーした。そして冬の凍った運河、氷上でのゴルフは人々の格好の憩いの場となった(写真7。ヘンドリック・アーフェルカンブ作、冬景色)。

第一に地形のもたらしたもの、そして第二に文化と経済力である。多くの絵画や公文書がそれを示す。オランダ、ゲルマン系民族の卓越した創造力は、ギルドの存在とともに優れた職人を育てた。水車、馬車、風車、そしてゴルフのボールとクラブ作りである。また過去400年余り続いたと言われる、ゴルフのクロスカントリー記念行事の伝統には、コミュニティーの中で支えられたゴルフの姿がある。経済においては17世紀大航海時代以前、15世紀ブルゴーニュ公国の頃、既に毛織物の生産により経済先進国となっている。アントワープなどの富裕な都市が出現し、金融、産業、技術などの多くを与えうる状況にあった。

ゴルフはオランダから北海を北上し、スコットランド東海岸の商港周辺に渡来したと推察する。広大なリンクスランドの草原はゴルフを次第に規模の大きなゴルフゲームへと変化させたのである。





14. ピーテル・フー・ブロンホルスト 《冬の雪に覆われた村と裸木》  
Pieter II Honthorst "Winter Landscape with Snow-Clad Trees and Bare Trees"

(写真4)



写真5)



34a Winter landscape, 1668  
Adriaen van de Velde  
(1635-1672)  
oil on panel, 30.4 x 36.4  
cms  
By courtesy of the Trustees  
of the National Gallery,  
London  
(the scene is a view on  
Haarlem from Spaarndam  
along the Spaarne river.  
The two colf-players on the  
ice are Scotsmen and must  
have been mercenary sol-  
diers)

34c Stoneware plaque, Makkum ▷  
abt. 1800  
54 x 45 cms  
private collection  
(the scene is the back-to-  
front reproduction which  
hails from an engraving of  
Jacques Allamet who made  
it after the painting of  
Adriaen van de Velde on  
this page)

(写真6)



(写真7)

【参考文献】

- 大澤 啓藏（2004） 『ゴルフの街を行く』 春風社
- 尾崎 寔（1997） 『ゴルフとイギリス人』 ちくま新書
- 栗原 福也（1997） 『ベネルクス現代史』 山川出版社
- 攝津 茂和（1975） 『ベッドで読むゴルフの本』 報知新聞社
- 攝津 茂和（1984） 『不滅のゴルフ名言集』 ベースボール・マガジン社
- 攝津 茂和（1992） 『ゴルフ史話』 ベースボール・マガジン社
- 田中 義久（1992） 『ゴルフと日本人』 岩波新書
- 「17世紀オランダ風景画展」 笠間日動美術館（1992）
- 「ブリューゲルとネーデルランド風景画」（プラハ国立美術館所蔵） 国立西洋美術館（1990）
- Hatchinson, H. G & Lang, A. (1890). *Golf*. London : Longmans & Co.
- Henderson, I. T & Stirk, D. I (1979). *Golf in the Making*. Clawley : Henderson & Stirk Ltd.
- van Hengel, Steven J.H. (1982). *Early Golf*. Netherland : Drukkerij Tesink.
- Wiren, G. (1990). *PGA Teaching Manual*. U.S.A : PGA of America.